

夏の御詠歌

松 濤 基 作 曲
鈴 木 錦 承 振 付

二回お唱えし、二回お舞をする

扇は腰にさして出る （二回目の舞に使う）

唱え奉る報恩講寺の

静かに合掌

御詠歌に

静かに立ち両手をおろす

歌

舞

われ

左手掌を下にして少し斜め左に出す
同時に右手胸にあてる

はた

右手掌を下にして斜め右上にあげる
(手を見る)

だー

左手掌を右に向けつつ 斜上に運び

ー
①休

両手を「クルリ」と返して捧げる

ほと

両手合掌の位置まで

けに

おろして拝む

いつ

合掌のまま 顔をあげて

かー

正面を見る

歌	舞
あ ー	左手はそのまま 右足一歩前に出し、右手合掌の姿のまま、 顔をつけながら斜め正面にあげてゆき、掌を上向きに返す
ー ー	
お ー	
ー ー	
い ー	右手と顔はそのまま、 左手のみおろして、左袖口を中から持つ
ぐ ー	
さ ー	右手片手合掌のまま胸の前におろし(少し高い目)、 その手をかくすように、 左手を向う側に横にして、 左足を右足に揃えて、顔をふせる
ー ー	
こ こ	右足を斜め右に出しながら、 両手で斜め下から大きくすくいあげ、 顔のあたりで「クルリ」と内に返して、 掌を下にむけ
ろ の	
つ ー	左足を右足に揃えながら、 右手を前方にのばし、 左手は左横に伸ばす(両手掌は下向き)
ま に	

歌	舞
か 	左足を斜め左に出しながら、 両手を斜め下から大きくすくいあげ、 顔のあたりで「クルリ」と内に返して、掌を下にむけ、 右足を左足に揃えながら、
け Ⓚ	左手前方に伸ばし、右手横に伸ばす 右手掌を上にして左胸の前に運び (指先左)
ぬ 	
ひ 	右足から右まわりに歩いて 正面にて足を揃える
ぞ 	
な 	左手帯の扇の所にあて、 右手で扇を抜き、左手を下側に添え、 扇の「要」が前方になるように
き 	右手で持って、 両手少し左右に離してから合掌する

歌	舞
われ	扇の「要」を右手に、 左手を下から受けて胸の前で開きながら、 右足を出して左足を揃え 左足を出して右足を揃え、前に出る
はた	
だ 	足を揃えたまま、 右手は扇を「クルリ」と向こうから廻して、 表を外にして胸前に立て、左手を内側に添える
 ⑩	
ほと	右足前に出しながら両手を解いて、 両横からすくうようにあげ捧げる (扇表上)
けに	
いつ	左足を右足に揃え、膝を屈めながら合掌する
か 	
あ 	左手そのままにして、 右手の扇の上を上にして、 掌で受けるようにもって、左手首の所によせると同時に 右足斜めに軽く「ﾄｯ」 左足を右足近くで後にすべらせる(左上をみる)
お 	左足を「ﾄｯ」右足をすべらせる 四回でひと廻りして、斜め左の方向でとまる

歌	舞
い ―	左手で、扇の端の方を上から四本の指で 親指を下からもって「クルリ」とかえし、 斜め左前に立てる(表右) 右足を斜め左に出す
ぐ ―	
さ ―	右手を右斜め下から掌が上になるように扇の近くに運び、 膝を曲げて扇を見る
― ―	
こ こ	扇の「要」を右手に渡し、 右足先を斜め右に向けて、
ろ の	
つ ―	左足を斜め右に出し、右手は扇を左肩の前あたりに運び(表上)、 左手は横へ伸ばし、左斜め上を見る
ま に	
か ―	左手内に向けて右肩の前に運び、斜め右上を見る
― ―	
け ⓪	上体を正面になるようにしながら、 膝を曲げて斜め左をみる
ぬ ―	右手、扇を表が正面になるように右肩の方へ横に運び、 左手は袖口をもって構える

歌	舞
ひ 	やや斜め左上をみながら、 左足から左まわりに歩いて、 正面にて、
ぞ 	
な 	足を揃え、扇表が外になるようにおろして両手左右に構える 右足を前に出すと同時に、肩の前でふせる
	右足をひき、扇は同時に上から後にまわして下を通して前に運び、 右足をもとにもどして、表外になるように
き 	扇を立てて、左足を「ト」 左足右足と後退しながら、扇を前で両方から閉じつつ座り、 扇を膝前に置く
	両手膝におろして、その後合掌して終わる 左手膝、右手で扇をとり、左手に受け扇を帯にさし、 合掌して立ち上り、退場する

ポイント注意

常に心の中に合掌して、お念仏を申して合掌していれば、必ず阿弥陀様にお会いすることができると信じて喜び、阿弥陀さまをお慕いする気持ちをもって、ありがたい心で舞ってください。

【あーおー】 足の運び方。右足から踏み出し、左足を軽く「ト」とします。4回で一回りします。
この時、「ト」の足も、「おすべりの足」も歩幅を小さくします。

【ほとけにいつかあおいぐさ…】 体全体の動き。左足を右足に添えて、顔を伏せる。仏さまにお会いしたいけれど、まだまだ修行が足りないことを悔やむ姿です。